

5 令和4年度第1回 資質向上協議会御意見への対応状況について

資料 5

項目	要望等の概要	対応状況
令和5年度愛知県教員研修計画(案) I 1の2	「2「新たな教師の学びの姿」の実現を踏まえ、」でしょうか。「実現を踏まえ、」という表現に違和感を感じます。「2「新たな教師の学びの姿」の実現に向けて、」又は「2「新たな教師の学びの姿」の実現をめざし、」の方が文意に沿っているような気がします。	<ul style="list-style-type: none"> ・「教師」を「教員」に統一 ・「『新たな教員の学びの姿』の実現に向けて」に統一
令和5年度愛知県教員研修計画(案) III 3(5) <留意事項>	記録自体が目的ではなく、過度な負担とならないようにというスタンスは、とても大切なことであり、よいと思います。	<ul style="list-style-type: none"> ・過度な負担とならないよう配慮をしている。
令和5年度愛知県教員研修計画(案) III 3	<ul style="list-style-type: none"> ・(6)研修履歴の記録の時期 『「研修履歴の記録の方法」に応じて、各教員が対話に基づく受講奨励が行われる期末面談等の前にまとめて記録する』という一文しか記載されていませんが、手引きでは他の記録時期に関する文言もありますので、それも載せたほうが良いのではないのでしょうか。この一文のみだと、(おそらく文科省のガイドラインを参考にされていると思いますが)研修履歴を「面談前」にしか記録できない、ようにも読めてしまいます。 ・(8)(こちら文科省のガイドラインに則っていると思いますが)期首面談、期末面談の中の文章で①などの番号が使われていますが、既に「①学校管理職以外への教師への対話に基づく受講奨励」の項目レベルで「①」が使われていますので、別の記号等を使用されたほうがわかりやすくなると思います。 ・(9)の前にある段落 この段落のタイトルとして「②校長等の学校管理職への対話に基づく受講奨励」が抜けていないのでしょうか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・「研修実施後随時または」を加える。 ・文章中の①②…を「」に変更 ・(9)の前の段落の頭に、「②校長等の学校管理職への対話に基づく受講奨励」を加える。
令和5年度愛知県教員研修計画(案) III 3(8)①	「学校管理職以外への…」の「へ」は必要ないと思います。	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校管理職以外の教員への対話に基づく受講奨励」に修正
令和5年度愛知県教員研修計画(案) III 3の(8)	枠内の(8)の2行目の冒頭にある「①」は、必要でしょうか？この(8)の中には丸囲みの数字がいくつかあるのですが、冒頭①の続く②以降はないように思うのですが。	<ul style="list-style-type: none"> ・文章中の①②…を「」に変更
令和5年度愛知県教員研修計画(案) III 3	<ul style="list-style-type: none"> ・(8)について、期首・期末面談を教職員評価に関する面談と同時に実施する等工夫とあるが、盛りだくさんになるために負担感がある。また、別々に行う余裕も特に期末の方はないように思われる。そういう意味で、教頭等が面談を行い、校長に報告の形も示されているので助かるが、今度は教頭等の多忙化も心配される。入試も早まり、1、2月の新たな面談実施は管理職の多忙化に拍車がかかると感じる。 ・(8)について、後半の「その他」から始まる段の所で、「養護教諭や栄養教諭など、校内において一人又は少数しか配置されていない教師については、域内の複数校におけるネットワークの構築などにより、同職種の教師間での学び合いを積極的に取り入れる」とあるが、現時点で、具体的なやり方についてはどうなっているのか。この件については、保健体育課又は総合教育センターが主となって動く形と理解してよいか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校での役割分担や面談日の設定、面談の仕方の工夫ができるとうい。 ・今後、関係する研修や研究会等を基に、取組を検討していく必要がある。 ・養護教諭や栄養教諭については、現在行われている研修や関係組織との取組の中で、同職種間の学び合いが行われているという認識であるが、今後も研修や関係組織との連携の中で、キャリアステージに見合った専門性に係る資質向上を目指していく。 また、専門性に偏重することなく、異職種の教師間での学び合いは、他の教諭同様に校内OJT等の学び合いを積極的にお願いしたい。

5 令和4年度第1回 資質向上協議会御意見への対応状況について

資料 5

<p>令和5年度愛知県教員研修計画(案) P5 III 3の◇</p>	<p>・ICT教育の研修に関する【所管課】として、ICT教育推進課を加える。</p>	<p>・「研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励」に関する役割分担であるため、所管課には入れない。</p>
<p>参考 令和5年度愛知県教員研修計画(案)</p>	<p>※<全体を通して> 全体を通して国の用語を引用した部分を除き、「教師」と「教員」の表現が混在している。各々の用語の対象者が違っているのでしょうか。 ※8ページ (原案) ○ GIGAスクール構想の実現のためのICTの研修を充実させる。 (修正案) *他の文章と表現を統一する。 ○ GIGAスクール構想の実現のためのICTの研修を充実する。 ※11ページ ◇「研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励」に関する教育委員会の役割分担について ・ICT教育の研修に関する【所管課】として、ICT教育推進課を加える。</p>	<p>・「教師」を「教員」に統一 ・「GIGAスクール構想の実現のためのICTの研修を充実する」に統一 ・「研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励」に関する役割分担であるため、所管課には入れない。</p>
<p>研修履歴を活用した指導助言等の手引き(案) P6の○の一つ目・二つ目 4(1)</p>	<p>この従わない事例の場合、学校が相談する担当課はP.7の6になるかと思われるが、複数ありわかりにくい。この事例では、具体的にどこに相談すればよいか。</p>	<p>小・中・義務教育学校は市町村教育委員会。県立学校は高等学校においては高等学校教育課、特別支援学校においては特別支援教育課。</p>
<p>研修受講履歴の記録(ポートフォリオ)の記載事項について(案)</p>	<p>・愛知県教員育成指標に照らして、該当する視点の記号番号を記入する欄がありますが、たとえば、ポップアップの選択式などにして、関係が深いと思われるものを最大3つまで選択可能にする、なども良いのではないのでしょうか。そうすれば、選ばれた育成指標の数(本質的に重要な指標ではないかもしれませんが…)をレーダーチャートやグラフ等で表示するなどして各育成指標に対する学びの蓄積をわかりやすく可視化できるため、学びの振り返りや自由記述欄の記入の負担が少しだけ軽くなるかもしれないと思いました。別に上記のような形でなくとも良いのですが、電子システムであることのメリットを関係者(面接をする側と受ける側の双方)の負担軽減に最大限生かせるように設計すべきであると思います。 ・常勤講師はシステムのポートフォリオを使用しないとの事ですが、正規と非正規で差をつけることは望ましくありませんし、「学び続ける教師のスタートはあくまで正規雇用後である」ように受け止める方もいるかもしれません。文科省のガイドラインにあるように運用上難しい面があることは理解できますが、たとえばシステムのアカウントだけは用意し、利用するかは当事者に任せるなどできないのでしょうか。また、講師時代の研修履歴を採用試験でも部分的に活用するなどの方策も検討する余地はあるかもしれません。</p>	<p>・教員育成指標の選択範囲を1~2つ程度とする。その他の機能についてはシステム改修の予算上、現時点ではできない。今後検討していく。 ・常勤講師については、履歴をシステムに入力しても累積することができないため、現段階ではエクセルファイルでの入力を考えている。</p>
<p>研修受講履歴の記録(ポートフォリオ)の記載事項について(案)</p>	<p>運用面について 教職員評価制度のように、1月15日までの入力ということになるのか。</p>	<p>・期末面談までに研修が終了している研修と所感(振り返り)のみ記入した上で面談する。その後、研修が終了した時点で、未記入部分を記録する。</p>
<p>研修履歴を活用した指導助言等の手引き(案) P3 3(5)</p>	<p>「対話に基づく受講奨励が行われる期末面談等の前にまとめて各教員が記録すること」という一文は、文科省のガイドラインに則ったものだと思いますが、たとえば「~面談等の前までに適宜記録すること」など適宜記録できるようにしたほうが良いと思いました。</p>	<p>・「研修実施後随時または」を加える。</p>

5 令和4年度第1回 資質向上協議会御意見への対応状況について

資料 5

<p>研修履歴を活用した指導助言等の手引き（案）P7 6</p>	<p>・ICT教育の研修に関する【所管課】として、ICT教育推進課を加える。</p>	<p>・「研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励」に関する役割分担であるため、所管課には入れない。</p>
<p>全体</p>	<p>国の法律改正などを踏まえて、適切に計画の改善が行われていると感じます。「新たな教師の学びの姿」が実現し、子供達に充実した教育が行われるよう、引き続き教育委員会として努力していただきたいと思ひます。</p>	<p>・「新たな教員の学びの姿」の実現に向け、取り組んでいく。</p>
<p>その他</p>	<p>学び続ける教員の研修を奨励し、力強く支援するための研修計画にするという構えで策定していただけていることをとても嬉しく思ひます。ほとんどの教員は、自らの力量を高めたいと思ひています。研修の必要性も感じています。しかし、現場では、日々の業務に追われ、自ら求めて研修に動き出すことが困難な状況にあります。また、学校を空けて研修に出向くことによる他の教員にかかる負担を考えると、気兼ねなく研修に出向くことができないという現状もあります。現場の努力や工夫だけで克服できることではありません。教員の資質向上に最も必要なことは、経済的にも、時間的にも精神的にもゆとりをもって職務に臨むことができる環境を整えることだと思ひます。仕事を減らし、人を増やす。こうした条件整備についても、ご尽力いただきたいです。</p>	<p>・新たな教員の学びの姿」の実現に向け、効果的で効率的な研修の在り方等を引き続き検討していく。 ・愛知県では、中長期的な視野のもとに平準化した新規採用数の確保に努め、新規採用教員の採用計画を見直しているところである。令和5年度採用の教員採用選考試験の採用予定人員においては、小中学校で70人、県立学校で70人を増員とした。令和5年度から始まる定年引き上げにより、定年退職者が発生しない年においても、積極的に正規教員を採用したいと考えている。また、スクールサポートスタッフ、校務支援員などの外部人材の更なる活用や休日の部活動の見直しなどを始めとした学校における働き方改革を進め、教員がゆとりをもって職務に臨む環境づくりに努めていきたい。</p>